

「ゆずり合い 心や道に 咲く笑顔」

～令和2年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品を決定しました～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を特に推進することにより、道路を利用する国民に、道路とふれあい、道路の役割や重要性を改めて認識していただき、道路を常に広く、美しく、安全に利用していただくことを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：90団体（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その役割や重要性が見過ごされがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の活動の一環として、昭和41年より毎年、広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しております。55回目を迎える本年は、全国から1,098作品もの応募がありました。

応募作品について、推進標語審査懇談会の三好礼子氏（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ氏（川柳作家）、吉岡耀子氏（交通・環境ジャーナリスト）の3名の委員による選考を経て、[小学生の部] [中学生の部] [一般の部] の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品を決定しました。

入選作品の標語は、令和2年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

◆審査委員◆【総合選評】



三好礼子 委員

代表標語は、街に掲げられている様子を想像するだけでワクワクするものです。道路から始まる心のふれあいが、どんどん広がって行きますように。

ニュースでよく流れた「未来は分からない」という言葉。この時期に作られた作品もあるのだろうと思うと、例年とは異なるドキドキ感で選出を始めました。今年は一人2作品までということ、より洗練されたものが多い印象を持ちましたが、全体に力強いのに柔らかさと優しさが感じられ、詠んでいるだけで元気づけられました。



やすみりえ 委員

今年度の応募総数はやや少なかったものの、寄せられた作品は例年と変わらずに魅力的なものが沢山ありました。そのため、充実した選考をさせていただきました。移り行く日々の中で、忘れてはならない「感謝」や「やさしさ」を伝えてくれる内容のものが入賞標語として選ばれた印象です。これらは今の時代に沿ったメッセージとして、日本中に発信されることで、これからも「道路」に重ねて伝えたい言葉をみんなで考えていきたいですね。



吉岡耀子 委員

新型コロナウイルスによる生活の不自由さにさらされていると、あらためて外出や道路の価値を感じます。その中での選出作業ではいつも増して道を身近に感じました。小学生、中学生、一般の最優秀賞はどれをとっても、心にしみみます。例年、8月の道路ふれあい月間は全国で子供たちが参加しての関連イベントが開かれてきました。今年も青空の下でこの標語が生きることを願っています。

◆令和2年度の入選者・作品◆

最優秀賞（3作品）

【小学生の部】「また会える あなたとわたしをつなぐ道」

竹葉 ひかる さん（兵庫県 西宮市立瓦林小学校）

（三好委員）過去・今・未来を感じさせる素敵な標語ですね。自粛休校時に会いたい友達のことを思っで作ったのかなと想像しながら読みました。「また」を最初に持ってきたことで、より一層「あの道を笑顔と一緒に歩きたい」との思いが伝わってきます。「あなたとわたしを」も、仲の良さと親密感が感じられ、好きどころ。私にとっても大切な空間だった通学路のことを、ふと思いついてしまいました。もし月日が経って離れ離れになっても心の道が繋がっているよ、ということまで感じさせてくれます。

（やすみ委員）あたたかな気持ちにさせてくれる標語です。「また会える」という言葉が、どこまでも繋がってゆく道へのイメージとうまく重なっています。また、道が人と人との心までも繋げてくれているようなとらえ方も素敵だと思いました。会いたい人の顔を思い浮かべて道を眺めれば、自然と優しい思いがあふれてくるのではないのでしょうか。そして、そこから「思いやり」が社会全体へ広がれば素晴らしいですね。

（吉岡委員）希望に満ちてますます歌い上げた、9歳の女子生徒さんの作品です。「また会える」という言葉は、生活の中から生まれた言葉なのでしょうか、あるいは想像で育んだ言葉でしょうか。「あなたとわたし」という広がり、「また会える」という期待の言葉が組み合わせられて、道の姿が浮かび上がってきます。小学生ならではの明るい調子に、拍手です。

【中学生の部】「ゆずり合い 心や道に 咲く笑顔」

小島 樹 さん（埼玉県 東松山市立白山中学校）

（三好委員）泣いてしまいたいそう。読み返す度に深みが増してくる強力な標語です。どの言葉にも今の日本（世界）が一番大切にしたいものが散りばめられているからでしょう。応募作品の中では圧倒的に多い「ゆずり合い」ですが、「心や道に」と来たことで、究極の優しさが溢れ出しました。「心と道」ではなく「や」だったことで、不思議な広がり感も。まさにふれあいは道路から。他者を思いやる自分と、笑顔が咲く明るい社会を作り上げていきたいので、毎朝、声に出して詠んでスタートします！（やすみ委員）今年度の代表標語にふさわしい内容です。特に「ゆずり合い」という言葉からは昨今の「あおり運転」問題なども想像でき、さまざまな場所で活用していただきたい標語だと感じています。さらに、「咲く笑顔」という表現も、作品全体的に明るい雰囲気を作り出している良いポイントになっています。リズムよく響くフレーズですので、多くの人の心に刻まれることを願っています。

（吉岡委員）優しい言葉遣いがずっと心に入ってきます。譲り合いや笑顔が道に広がる情景を思い浮かべるとそれが心温まり、そこから力が生まれてくるように、代表標語に選出されました。コロナ禍に苦しむ全国の道路で、この標語から生まれた癒しの花があらにもこちらにも咲きますように。また優秀賞2作品には、アスファルト、スタートラインというカタカナ用語が組み込まれていて、印象的でした。中学生らしい新鮮な気持ちが伝わります。

【一般の部】「ありがとう 生きる力を くれた道」

村岡 君代 さん（兵庫県 丹波市）

（三好委員）深いのに、爽やかな直球。作者の強い思いが「たおやかに」伝わってきます。東北の震災～昨年の台風災害など、今なお各地で終わらなき復旧作業が行われていますが、どんなに道や橋が有り難かったのか、失って初めて分かるもの。経験者、あるいは辛さを共有できる人、そして今幸せでなければこの標語は作れないでしょう。道は、あらゆる人や場所や縁に通じます。「生きる力」は、その繋がりへの「ありがとう」でしょうか。どんな道だったのか気になりつつ、素敵な標語を「ありがとう」。（やすみ委員）シンプルで力強く、とても印象に残りました。真っ直ぐに心へ飛び込んでくる作品です。直球ストレートの良さがありました。「生きる力」という言葉からは、人それぞれに幅広くイメージが膨らむことでしょうか。「ありがとう」という感謝の気持ちから始まる、道への想い。今一度、日常の生活の中にある道の大切さを見直してみたくくなりました。

（吉岡委員）まっすぐに人生への感謝を込めている言葉に引き込まれました。73歳、兵庫県にお住まいの女性とのことですが、なにかの記憶が反映されているのでしょうか。そう思わせるほどに、「生きる力をくれた」という言葉には重さがあり、道との結びつきもストレートで、前に進む希望も感じられます。

《 最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった
「ゆずり合い 心や道に 咲く笑顔」を今年度の代表標語とします。 》

優秀賞（6作品）

【小学生の部】

「友達と 夢語り合う 通学路」

岡本知沙 さん（大阪府 堺市）

「ありがとう わたしのくらしを まもるみち」

鴨居愛佳 さん（東京都 千代田区立番町小学校）

【中学生の部】

「アスファルト 僕と思い出 つなぐ道」

笹倉陽諒 さん（宮城県 仙台市立郡山中学校）

「この道は 夢につながる スタートライン」

山本美采 さん（東京都 世田谷区立梅丘中学校）

【一般の部】

「伝えたい いつもの道の 大切さ」

角森みゆき さん（島根県 安来市）

「この道は 未来の人への おくりもの」

新納愛菜 さん（宮崎県 宮崎第一高等学校）